

「私は何？」



セックス&ジェンダー大解剖!

～「多様性」を理解するために～

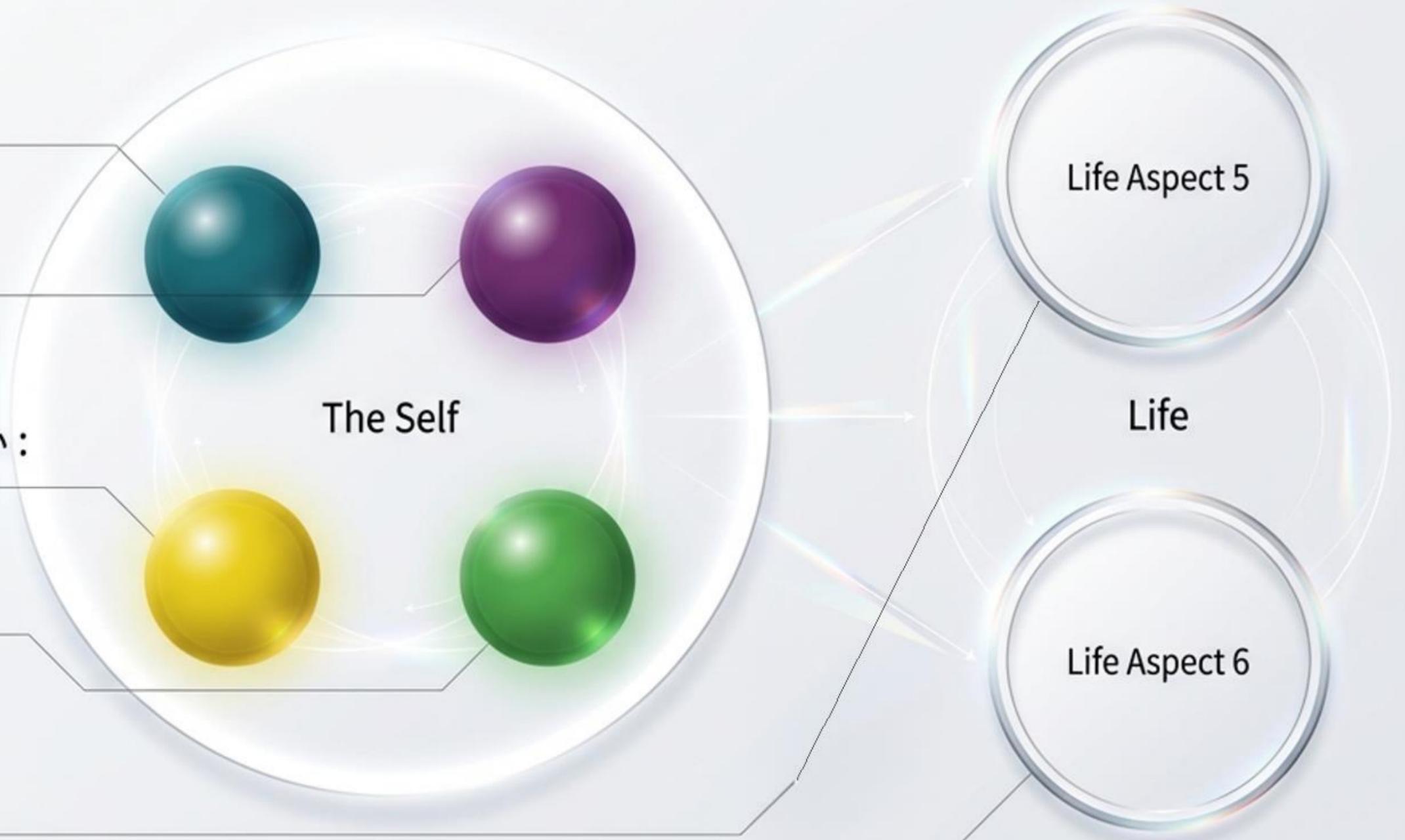
SEXとGENDERから考える 「自分」の4側面+「生き方」の2側面

【「自分」の4側面】

1. 自分は何か（身体）：
セックス・キャラクタースティックス
(Sex characteristics)
2. 自分は何か（認知・意識）：
ジェンダー・アイデンティティ
(Gender identity)
3. 自分のジェンダーを外界にどう表現するか：
ジェンダー・エクスプレッション
(Gender expression)
4. 親密な感情や性的指向の有無・向き：
セクシュアル・オリエンテーション
(Sexual orientation)

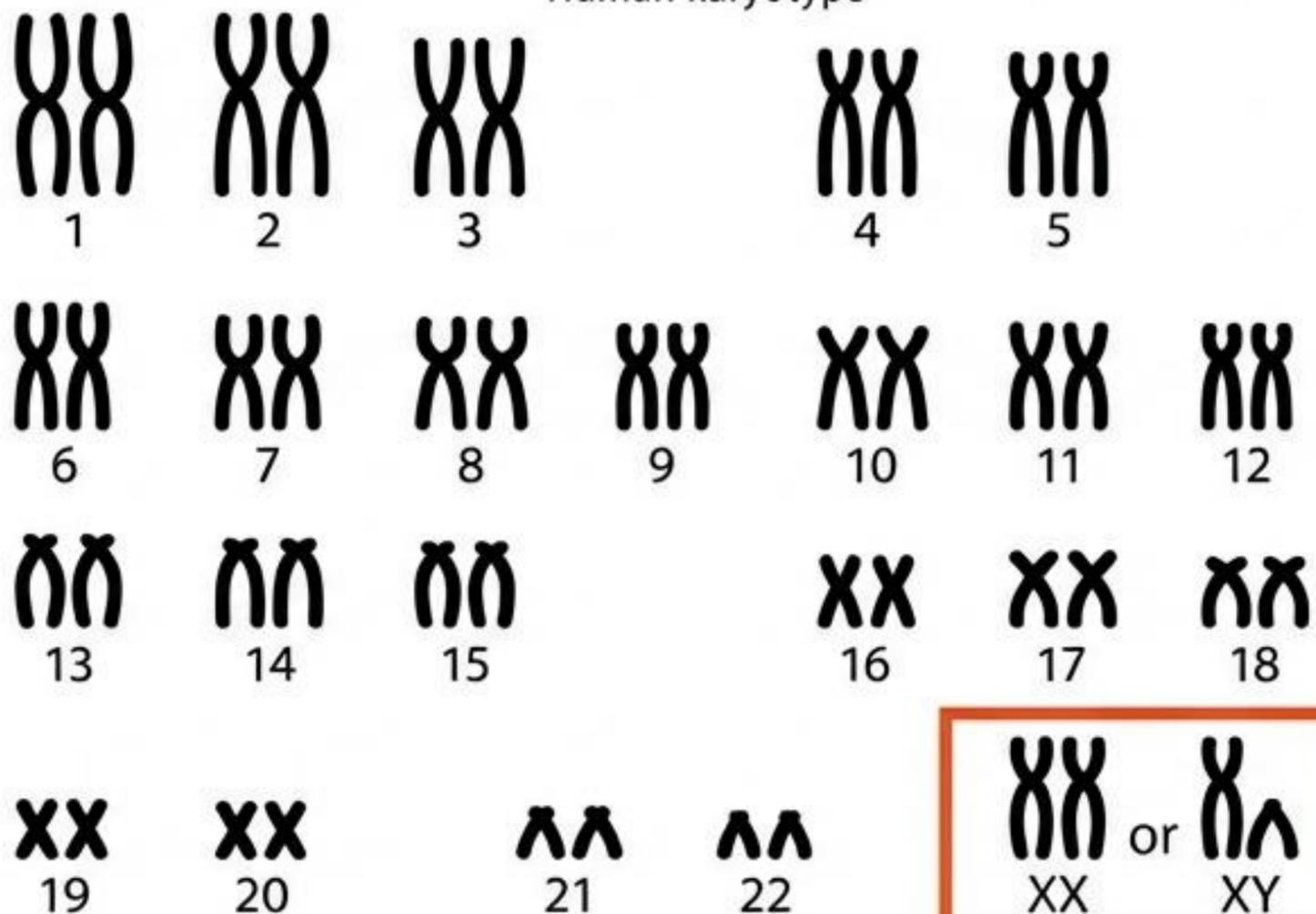
【「生き方」の2側面】

5. 他者との親密な関係の方法
6. 生活のしかた



1. 自分は何か（身体）：セックス・キャラクターリスティックス (Sex characteristics)

人間の染色体(核型)
Human karyotype



人間の染色体（遺伝子）：
多くの場合 23対×2 46本

性染色体：
全染色体の23対目（XXまたはXY）

「SEX」（身体的性別）の決定要因と思われているが…

性染色体（遺伝子）は
「男」「女」の
2種類だけではない！

性染色体（遺伝子）は
「XX（女性）」と
「XY（男性）」の
2種類だけしかない？

いいえ！

基本的な原因：

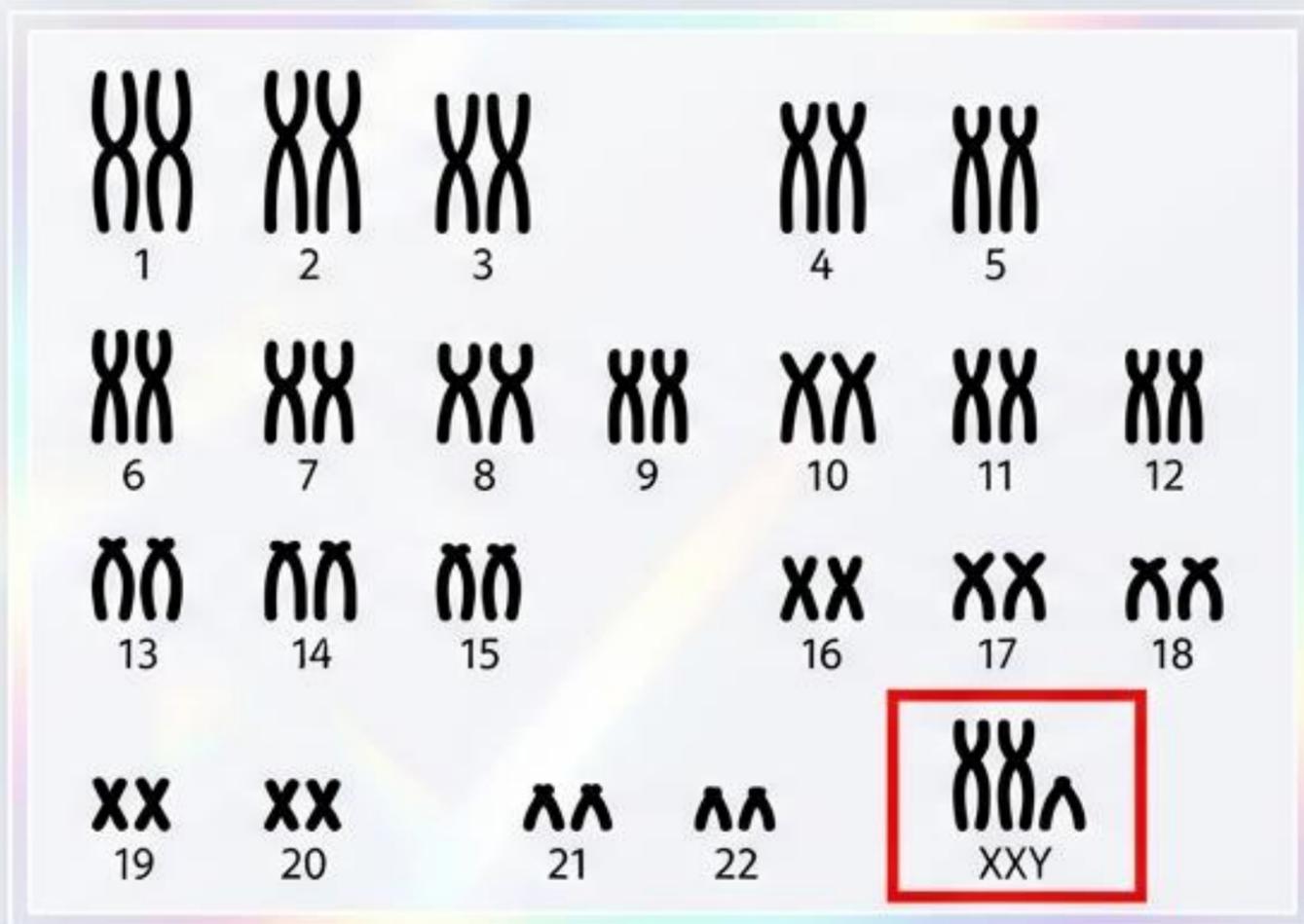
- 精子、卵子が作られるときに偶然に起こる誤り
- 受精卵が分裂する初期に偶然に起こる誤り

決して「生物学的な父親・
母親の責任」ではない！

多様性の例

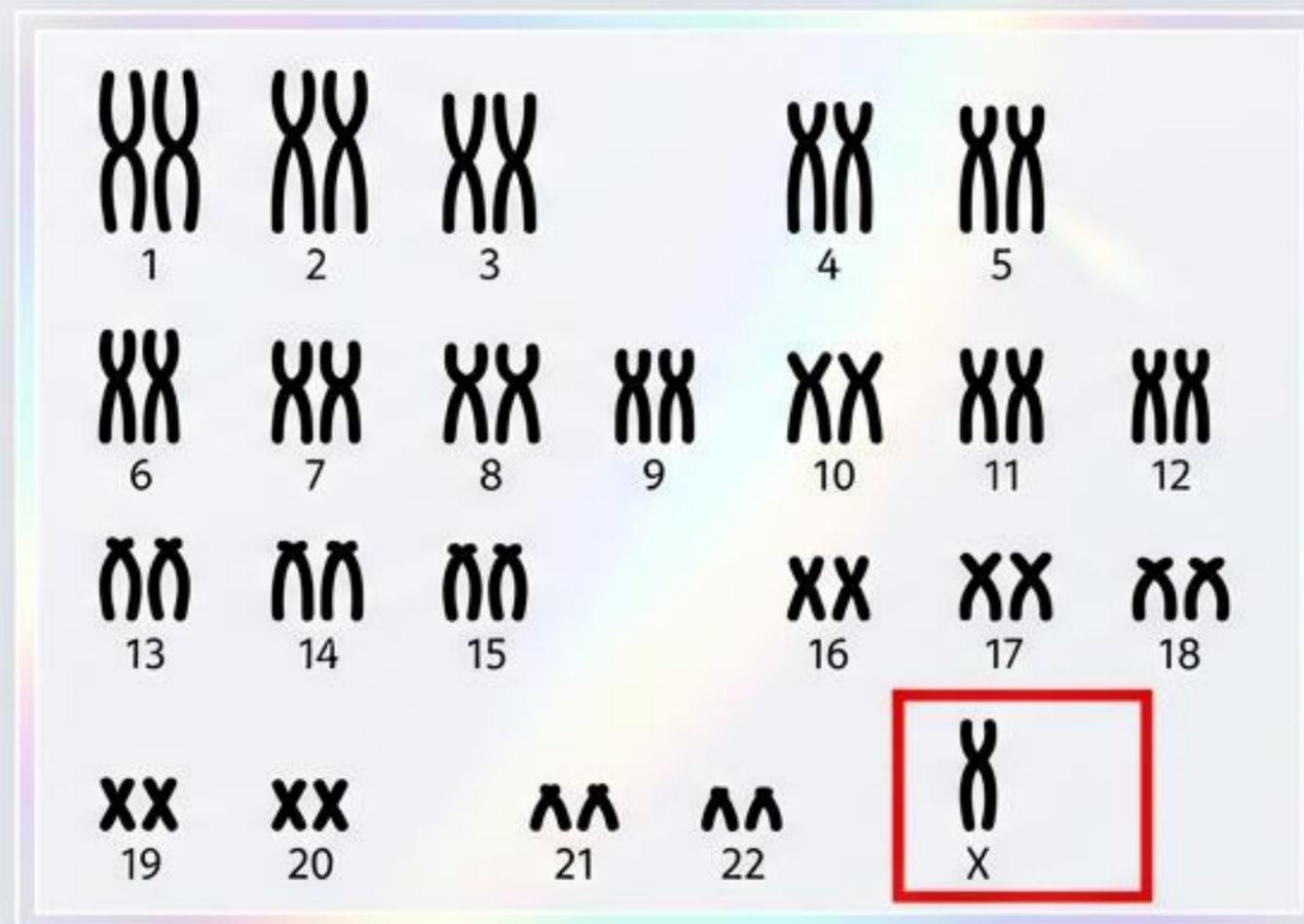
XXY (クラインフェルター症候群)

- 性染色体XYの対に、もうひとつXがついている
- 「男性」の500~1000人に1人



X (ターナー症候群)

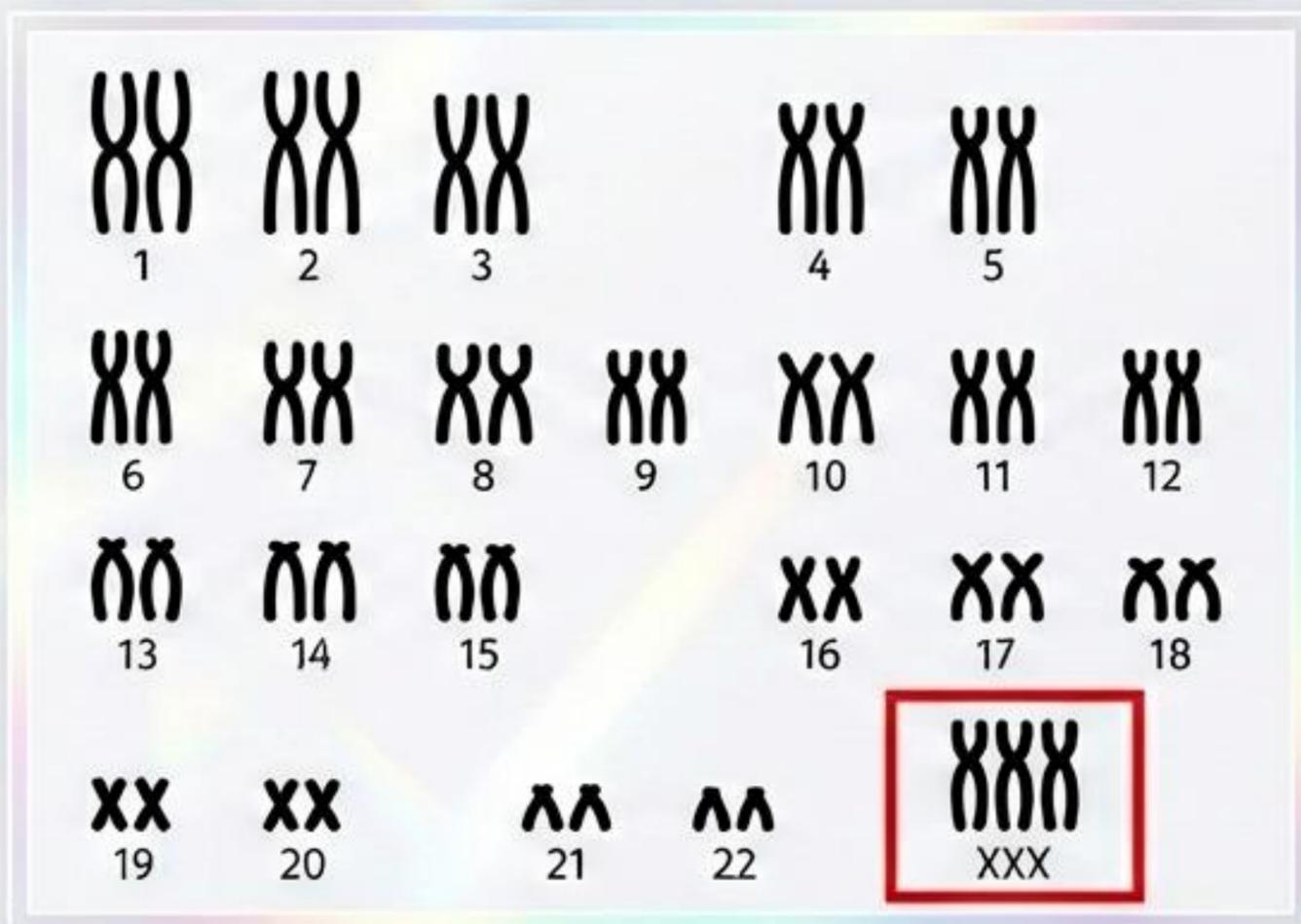
- 性染色体XXのうち1つのXが完全にはないか一部が欠けている
- 女性の2000~2500人に1人



多様性の例

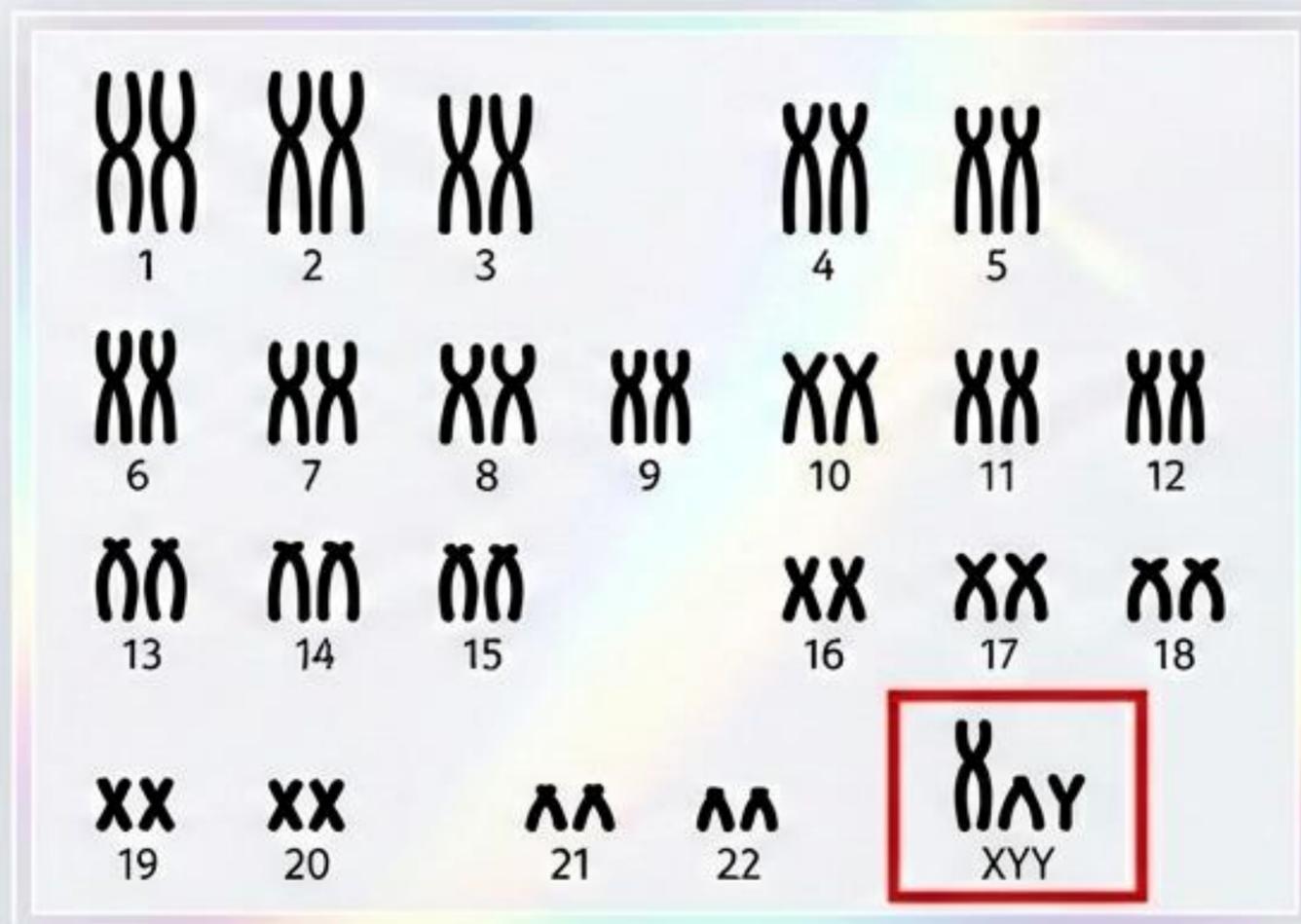
XXX (トリプルX症候群)

- ・性染色体 (X) が3つある
- ・女性の1000人に1人



XYY (ヤコブ症候群)

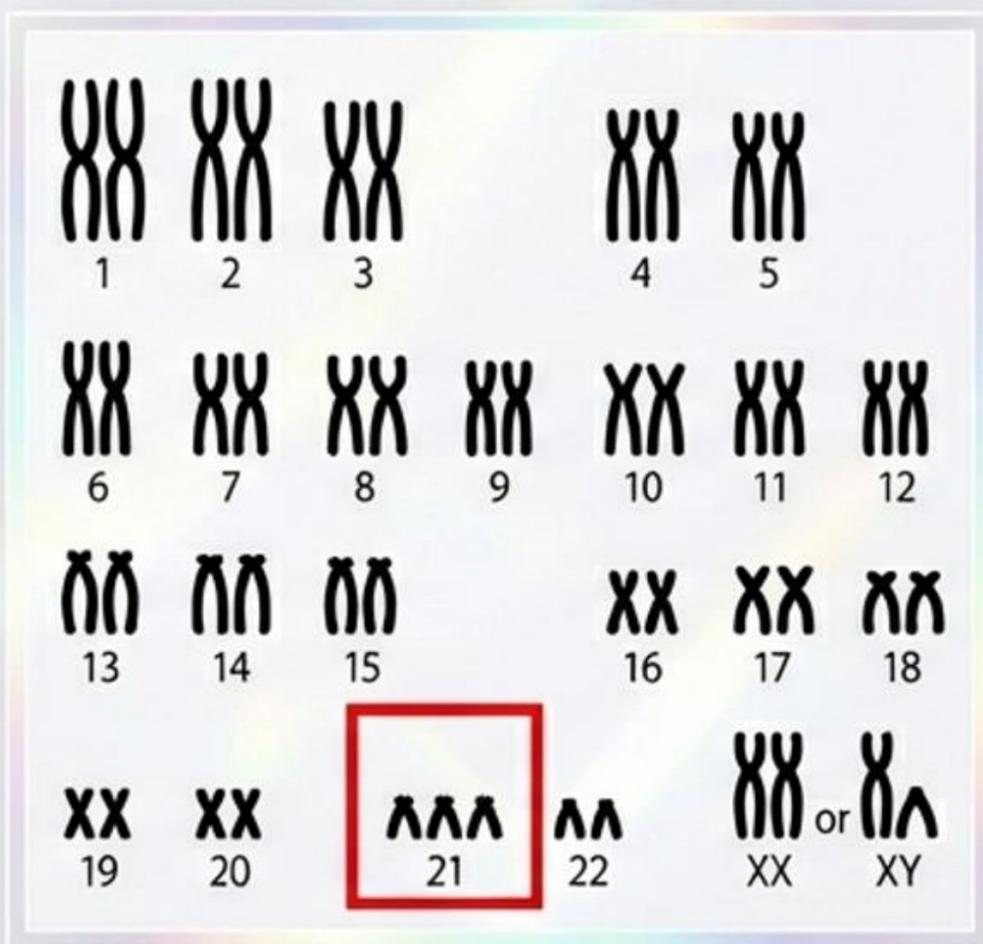
- ・性染色体のYが重複している
- ・男性の1000人に1人



性染色体以外にも多様性がある

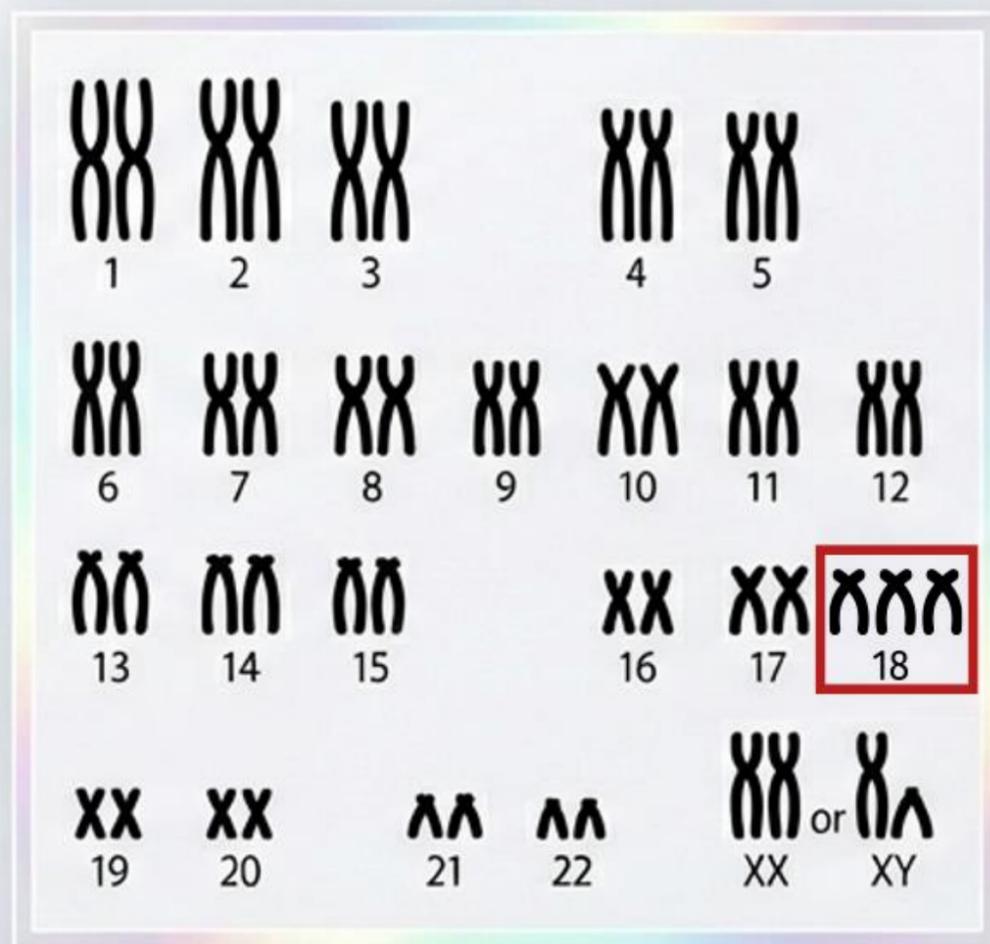
ダウン症候群 (21トリソミー)

21対目の染色体の染色体が3本ある
(800人に1人)



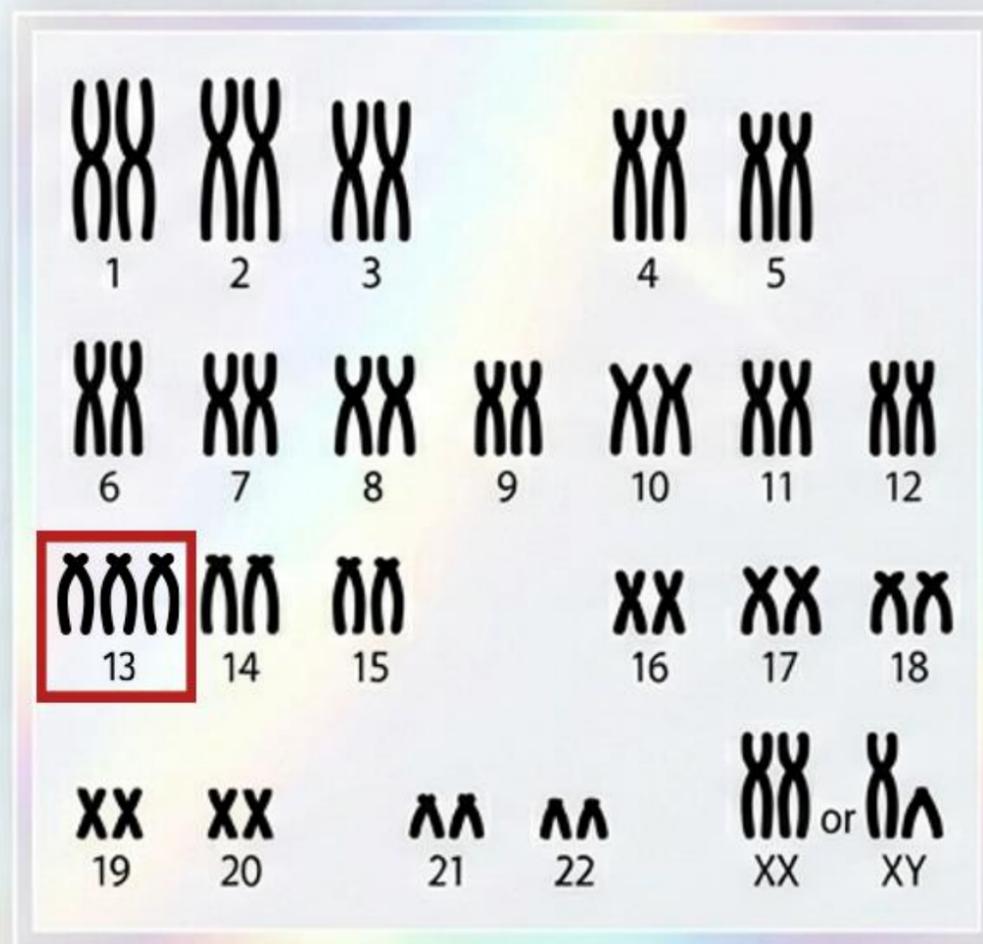
エドワーズ症候群 (18トリソミー)

18対目の染色体の染色体が3本ある
(3,500人~8,500人に1人)



パトウ症候群 (13トリソミー)

13対目の染色体の染色体が3本ある
(5,000人~12,000人に1人)



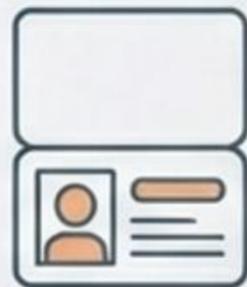
「性染色体が身体的性別や外見を決定する」と思われているが…?

いいえ!

性染色体が **外見や内/外性器を決めるわけではない**

- **Swyer症候群**: 性染色体はXY (男性) だが、性決定遺伝子 (SRY) が働かず、性器は女性
- **アンドロゲン不応症**: 性染色体はXY (男性) だが、男性ホルモン受容体が働かず、外見は女性
外性器の形状はさまざま
- **XX male症候群**: 性染色体はXX (女性) だが、性決定遺伝子 (SRY) がXに転座
外見も性器も男性 精巣などは機能しない

「広義のインターセックス」は、約100人に1人とも試算されている。



参考: 米国初の「X」ジェンダーパスポート保持者 Dana Zzyym氏はインターセックスとして生まれ、権利向上のために活動しています。

2. 自分は何か（認知・意識）：ジェンダー・アイデンティティ Gender identity

染色体がXXなら女？
男性器があれば男？

いいえ！

性染色体や性器が
「自分は女/男」という
認知を決めるわけではない



ジェンダー・アイデンティティの多様性：
女性、男性、ノン・バイナリー（non-binary）、
トランス（trans）、シス（cis）など

性別違和（gender dysphoria）：
自分の認知と身体の性別が一致しない場合
→ 必要に応じてジェンダー適合のためのケア
（gender affirming care）

認知や意識は個人をとりまく文化・環境に強く影響される

- 日本のように もともと「中性的 (アンドロジニー androgyny)」が認められている文化
- 米国のように 男女の性別の表現が極端で「あいだ」がない文化
- 「手術などで身体を変える」ことに対する文化的土壌・忌避感も影響？

認知や意識は個人をとりまく文化・環境に強く影響される

**トランス男性とトランス女性は
社会の中でまったく異なる扱いを受けている**

なぜなら

男性と女性に対する扱いは

もともと社会の中で大きく違うから

3. 自分のジェンダーを外界にどう表現するか：ジェンダー・エクスペッション(Gender expression)

性自認が「女性」＝「女性的」な装い？ 身体的性が「男性」＝「男性的」な外見？

いいえ！

「ジェンダー表現」は他の項目とは無関係で独立している



- 女性的表現 (Fem-presenting)
- 男性的表現 (Masc-presenting)
- 中性的表現 (Androgyny)



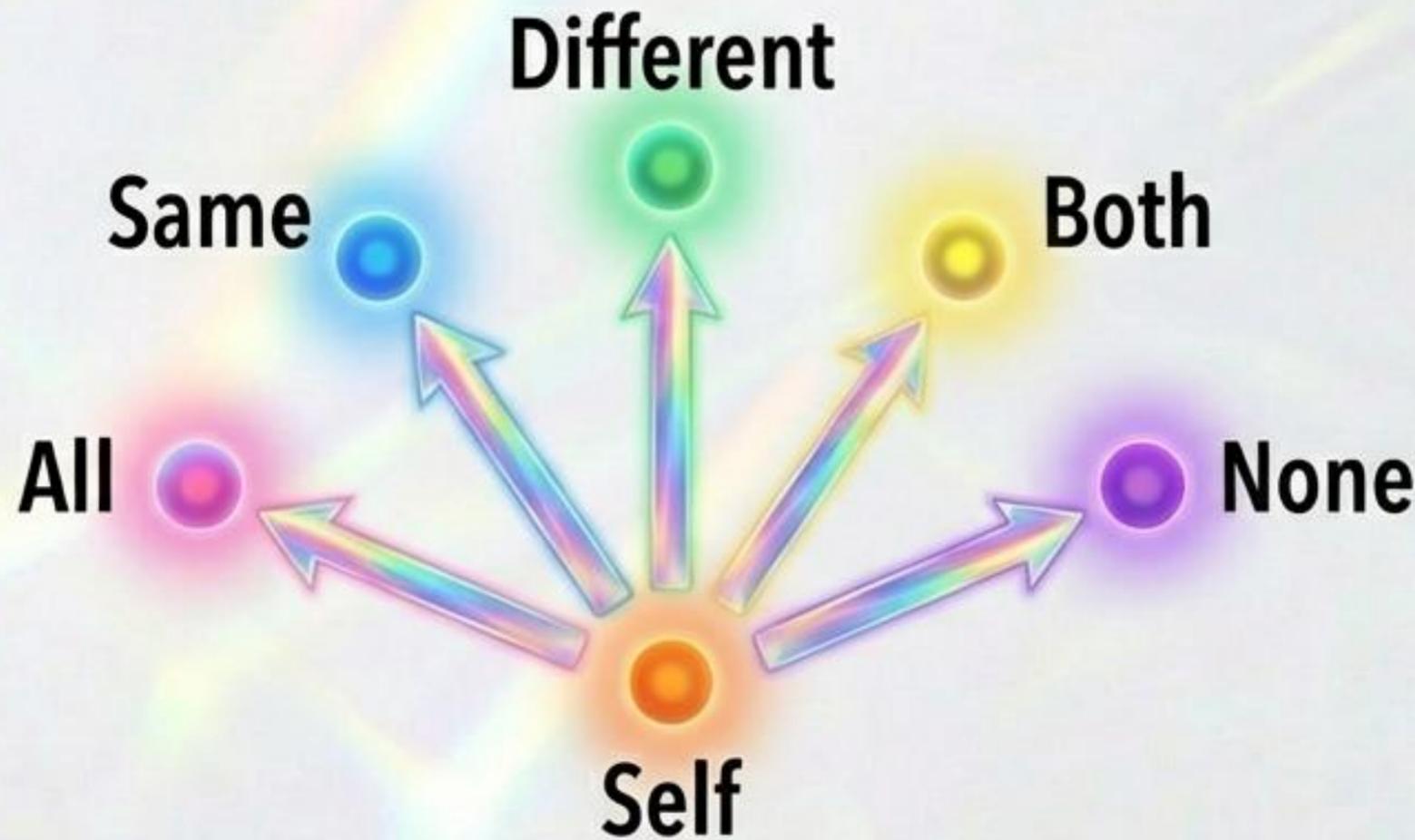
参考：Mark Bryan氏は
シスジェンダーの男性ですが
スカートやハイヒールを
着用しています。

4. 親密な感情や性的指向の有無・向き：セクシュアル・オリエンテーション (Sexual orientation)

女性的な表現の男性は、男性が好き？

いいえ！

親密な感情や性的指向の有無、向きは「自分は何か」以外とは無関係！！



レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、
パンセクシュアル、エイセクシュアル、
エイロマンティック



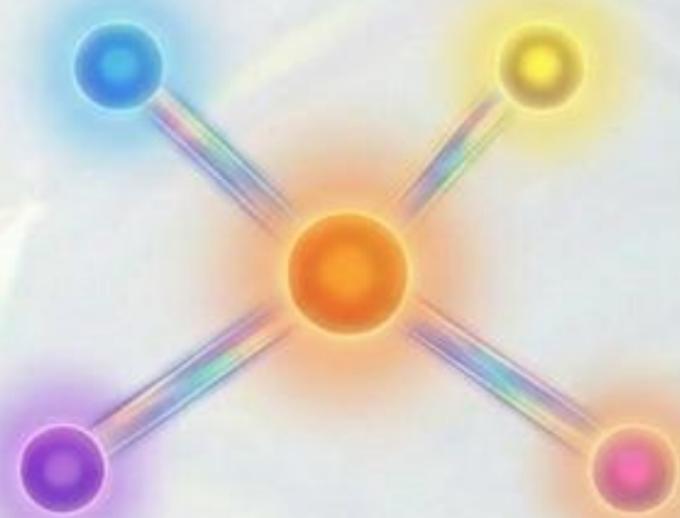
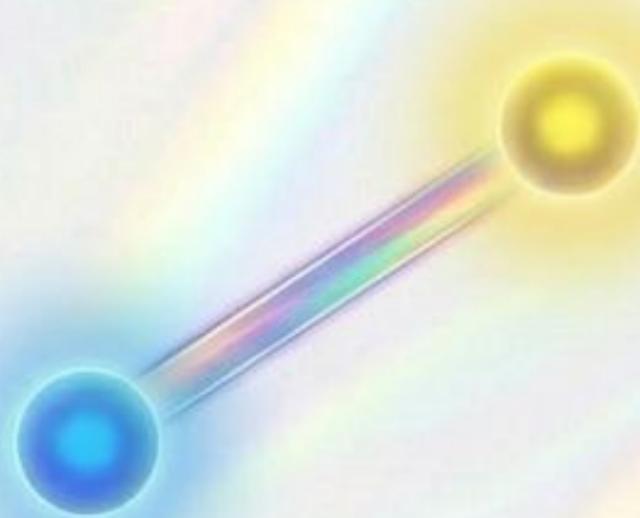
参考：オリンピック選手の中にも、パンセクシュアルやバイセクシュアルなど多様な性的指向を公表する選手が多数存在します。

5. 他者との親密な関係の方法

1対1の排他的な関係を、誰もが望んでいる？ 恋愛をしたいと誰もが思っている？

いいえ！

他の項目とは一切無関係！独立している



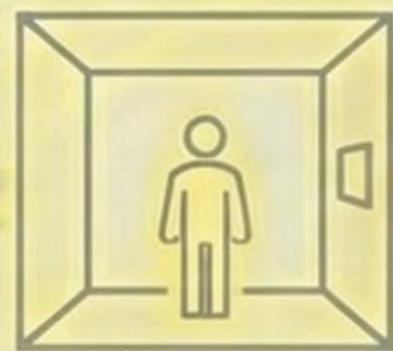
- 排他的関係 (monogamy)
- 非排他的なロマンティック/愛情関係 (polyamory)
- エイセクシュアル/エイロマンティック など

6. 生活のしかた

親密な関係を結んだら同居？ カップルは子どもが欲しいのが当然？

いいえ！

他の項目とは一切無関係！独立している



- 「ソロ solo」という選択 / 別居 / 表向きの体面を保ちつつ違う生活
- 子どもを育てるかどうか(人工授精、体外受精、代理母、養子縁組)
- 法律婚、事実婚/同姓、別姓



参考：Reciprocal IVF(パートナーの卵子を受精させ、もう一方が妊娠・出産する)を選択するカップルもいます。



「普通」な人間は一人もいない。

「多様性」を知ることとは、「自分」を知ること。